

## 細江英公氏 文化功労者顕彰を祝して

東京工芸大学同窓会  
副会長 奥田 昇

この度、平成 22 年度（文化功労者）顕彰に裕され、誠にありがとうございます。工芸大学同窓会として 3 人目の文化功労者顕彰を受けられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

最初の文化功労者に選出されましたのが、3 期卒業の渡辺義雄先生でした。次に 2 人目の文化功労者に選出されましたのが、24 期卒業の田沼武能先生でした。

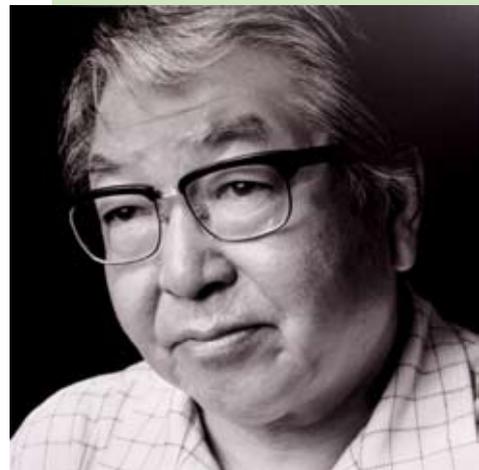
今回 3 人目の文化功労者として 29 期卒業の細江英公先生が選出され、工芸大学同窓会として、大変誇りに思います。

細江英公氏は 1933 年山形県米沢のお母様の実家で生まれ、その後、東京で育ちました。1944 年、生まれ故郷の米沢に疎開し 1 年間を過ごしました。

- 1948 年 (15 歳)で初めて自分のカメラを購入し、色々と撮影をしていたようです。
- 1949 年 (16 歳)都立隅田川高等学校に進学。
- 1951 年 (18 歳)富士フォトコンテスト (学生の部)で「ボーディちゃん」が最高賞を受賞。それを機に写真家を志した。
- 1952 年 東京写真短期大学技術科に入学し、11 月写真サロン 11 月号「子供」が特選に選出される。
- 1956 年 (23 歳)細江英公写真展フォトストーリー「東京のアメリカ娘」銀座小西六フォトギャラリーで第一回目の写真展を行いました。
- 1960 年 「おとこと女」
- 1963 年 「薔薇刑」
- 1969 年 「鎌鼬」この作品は、細江氏の代表作で米沢市に疎開していた頃、体験した作品で芸術選奨文部大臣賞を受賞している。その後、沢山の作品集、及び、毎年のように写真展を行っている。



細江英公氏(左)、奥田副会長(右)



細江英公 氏

- 1975 年 4 月、東京写真大学の教授となり、後に名誉教授となる。
- 1995 年 7 月、清里フォトアートミュージアムの初代館長に就任し、現在も、作品集の制作と数々の写真展と多忙なことと思いますが、東京工芸大学、後輩の為に生涯現役で活躍されますよう、希望いたします。

### 主な写真集

「おとこと女」「薔薇刑」「鎌鼬」「抱擁」「カウディの宇宙」「ルナ・ロッサ」「おかあさんのほか」「胡蝶の夢」「舞踏家大野一雄」「死の灰」などがある。

### 主な受賞

- 1998 年 紫綬褒章を受章
- 2002 年 紺綬褒章を受章
- 2003 年 英国王立写真協会創立 150 周年特別記念メダル勲章
- 2006 年 写真界の世界的業績を顕彰するルーシー賞 (米)の「先見的業績部門」を日本人として初受賞
- 2007 年 旭日小授章を受章
- 2010 年 ニューヨークにてナショナルアーツクラブ (米)より、日本人として初めて第 18 回写真部門生涯業績金賞を受賞
- 2010 年 文化功労者に選出される

# 山形新聞

夕刊

2010年(平成22年) 10月26日 (火曜日)

## 文化功労者に細江氏 写真家・米沢出身

### 文化勲章 鈴木、根岸両氏ら7人

政府は26日、2010年度の文化勲章をノーベル化学賞受賞が決まった有機合成化学の鈴木章(80)と根岸英一(75)、建築家の安藤忠雄(69)、原子核物理学の有馬朗人(80)、演出家の滝川幸雄(75)、服飾デザイナーの三宅一生(72)、日本中世史の脇田晴子(76)の7氏に贈ることを決めた。文化功労者には、米沢市出身の写真家細江英公(77)、元プロ野球選手監督の王貞治(70)、女優の吉永小百合(65)、歌舞伎の市川猿之助(70)、漫画家の水木しげる(88)、幹細胞生物学の山中伸弥(48)の6氏ら17人を選んだ。文化勲章の親授式は11月3日に皇居で、文化功労者の顕彰式は同4日に東京都内のホテルで行われる。

11月3日に皇居で、文化功労者の顕彰式は同4日に東京都内のホテルで行われる。

文化功労者はほかに指揮者 敏74、詩人の中村稔(83)、の大野和士(50)、エックス線 光化学・電気化学の藤嶋昭(86)、天文学の田中靖郎(79)、環境 (68)、書家の古谷蒼韻(86)、リスク管理学の中西準子(82)、刑事法学の松尾浩也(82)、生 命の革新的手法を開発 医薬品を製造する基盤技術などに貢

献した。原子核物理学で初の受章となる有馬氏は東大で学長や文相を歴任、学術振興でも評価された。山形大の経営に關する事項を審議する経営協議会の委員と、山形大学長選考会議の議長を務めている。安藤氏は新鮮な発想で優れた建築作品を数多く発表。鶴川氏は躍動感あふれる演出で演劇界に新風を吹き込んだ。川西町出身の劇作家・作家で4月に死去した井上ひさし氏



細江英公氏(ほそえいこう) 本名細江敏広(としひろ) 写真家。1908(昭和8)年米沢市生まれ。

東京写真短大(現東京工芸大)卒。富士フォトコンテスト学生の部最高賞(51年)を機に写真家を志した。土門拳(酒田市出身)をはじめとするリア

リズム写真全盛の時代、肉体的性を切り口に、自己の内面や他者との関係性を掘り下げた鮮烈な写真を発表。新しい世代の代表として活躍してきた。芸術選奨文部大臣賞、米国のルシー賞(シヨナリー) (先見の業績) 部門賞を受けるなど、国内外で高く評価されている。写真集に「おとこ女」作家三島由紀夫の肉体を写した「薔薇刑(ばらけい)」、「舞踏家土方巽との

「鎌鼬(かまいたち)」が、今年103歳で死去した舞踏家を追った「胡蝶の夢 舞踏家・大野一雄」。「ガウテイの宇宙」など、山形美術館(山形市)で2000年「細江英公の写真1950-2000」を開き、1996、98年には県写真展審査員を務めた。東京工芸大名誉教授、清里フォトアートのミュージアム館長。77歳。東京都杉並区。

の戯曲を演出。05年に初期の傑作「天保十二年のシエイクスピア」をよみがえらせ、その後も「敷原検校」「道元の冒険」「表裏源内蛙合戦」と初期作品を演出。09年には新作「ムサシ」を手掛け、今年ロンドン、ニューヨーク公演も高い評価を受けた。三宅氏は服飾デザイナーの第一線で活躍。山辺町などのニットメーカーが三宅氏のブランド製品を手掛けていた縁で、1979(昭和54)年には山形市で「ニットショー・イン山形」を開催。三宅氏のパリコレクション作品と本県産ニットをPRした。日本中世史で初となる脇田氏は中世の日本に自治都市的な性格を見いだした。

細江氏は古里米沢での疎開体験を、斬新な写真表現の中に定着。肉体にこだわり、建物や彫刻からも「人間」をえぐり出そうとする創作態度はうなら幸いだ。

安部三三郎米沢市長 大変喜ばしい。米沢の多くの写真愛好家にも大きな励みになる。今後、何らかの形で米沢の芸術界に指導を頂けるようなら幸いだ。

# 細江英公氏

## 文化功労者に選ばれる

# 新校舎第Ⅱ期工事

第Ⅰ期工事が7月末に完成し、8月中には写真学科、映像学科の引っ越しが完了した。間を置かず直ぐⅡ期工事を開始するため、取り壊されるスタジオ棟をはじめ、2号館、3号館、5号館、6号館、およびクラブ室などへの立ち入りは9月17日が最後であった。

私が2年生の時、2号館は旧木造2号館を取り壊して建設された。1969年のことである。当時の建設では杭打ちがあり1年間にわたり非常にうるさい時間を過ごした記憶がある。まさかこの2号館が取り壊され新しい建物に変わるなど夢にも思わなかったが、その取り壊し作業も既に佳境に入ってきている。

新学期が始まった9月中旬、2号館、3号館、5号館、スタジオ等の最後の姿をトリップしてきた。特に3号館は私にとって入学した1968年から学部立ち上げ前年の1993年まで学び、教えてきた研究室、実習室のあった建物だった。大学に残った1970年から10年ほどはアナグラと呼ばれていた半地下構造の旧木造1号館に居たが、のちに3号館の篠正教(故)研究室に移っていた。当時3号館には横型の大型製版カメラや平型の校正機、製版室、スキャナー室などがあり、

写真印刷科のちは画像技術科の学びの拠点だった。その意味で在籍者として3号館の取り壊しは人一倍寂しい気持ちがあった。

9月18日には取り壊し区域全ての建物への立ち入りが締め切られ、21日には工事用機材の搬入が始まった。翌10月21日には桜の伐採が行われ、本格的な解体工事が始まった。

解体は5号館から始まり、続いて3号館を東側から西側へ向かって壊し、80%位進んだところでスタジオ棟の解体も始まった。その後2号館の中央、東側、そして西側と進み、11月下旬には図書館側と東の民家側の一部の壁だけ残して、ほぼ解体が終了し、残土の搬出が始まっている。地下への掘削は年明けになる様子。Ⅱ期工事の完成は2013年春の予定である。

- ①解体開始。(2010.10.22.)
- ②5号館はほとんどなくなった。次は3号館。(2010.10.25)
- ③巨大な鉄で崩し取ってゆく。(2010.11.04)
- ④3号館がほとんどなくなった。(2010.11.04)
- ⑤3号館正面入口も解体。(2010.11.10)
- ⑥～⑧続いて2号館に取りかかる。(2010.11.12)
- ⑨中央階段部分が解体された。(2010.11.15)
- ⑩2号館もほとんどなくなった。(2010.11.29)

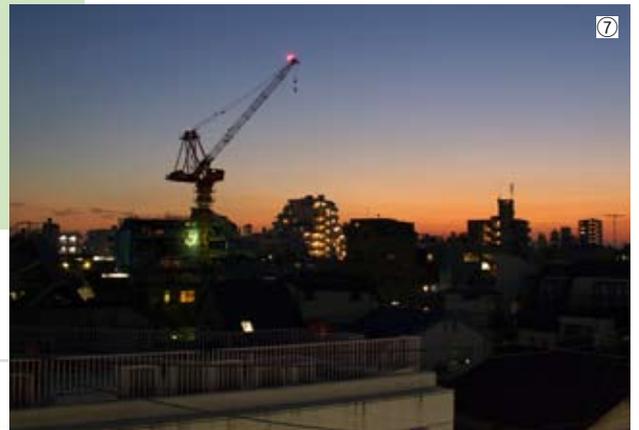
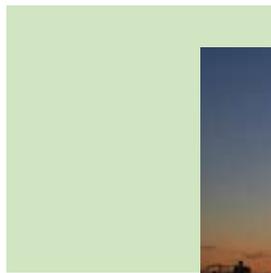
## 解体開始



# 新校舎第Ⅱ期工事

## 第2キャンパス 新3号館

第2キャンパスは、本郷通りに面した元宮園自動車（タクシー）の跡地を50年間借地し、中野キャンパスの新3号館を建設するものである。本校地の建設は鉄筋コンクリート造りであるが、こちらは鉄骨構造であるため建設期間が短く、来春(2011年)2月末完工予定である。土地は基本が台形で西北にやや出っ張った土地がある変形L字型で、地下2階地上5階建てとなり、デザイン学科(地下1階～3階)とマンガ学科(4～5階)が入る。建設は9月中旬までは基礎工事を行っていたが2週間後には4階まで鉄骨が組み、10月初旬には基本の骨組みは完成した。現在は配管などの組み込みが行われている。(第2キャンパスは仮称)



- ①本郷通り側から見た校地全景。真後に本校地が見え、その後ろは中野坂上のビル群である。(2010.9.17)
- ②本郷通り平地からみた建設用クレーン。(2010.9.17)
- ③西北側、L字になっている部分。(2010.9.17)
- ④北側、右後方に現行建物が見える。(2010.9.17)
- ⑤wabカメラ画像。(2010.11.19)
- ⑥新1号館より見た3～5階。(2010.11.29)
- ⑦新1号館より見た夜景。(2010.11.04)

# 解体前の 写大スタジオ



- ① 1階仕上室
- ② A暗室
- ③ 第1スタジオ（学部では映像スタジオ）
- ④～⑥ 1階から3階までの廻り階段



## 5号館

- ① 5号館外階段  
(短大時代は図書館)



- ① 立ち入り最後の日の2号館3階から見た新宿のビル群および中庭の桜と5号館、3号館
- ② 東側にあった通用口

## 周辺



# 新校舎第Ⅱ期工事

## 解体前の 旧2号館



写真の撮影日は全て2010年9月17日。

- ①本館3階から見た中庭と2号館。
- ②正面が2号館で左は5号館。
- ③北側から見た2号館。左は図書館、右は1号館。
- ④西側から見た2号館。渡り廊下は1号館とを繋いでいた。
- ⑤中央部から見た正面が1号館と左は本館。
- ⑥ピロティから3号館と本館下を通して正門方向を見る。
- ⑦夜の2号館と正門方向を見る。
- ⑧本館下通路から見た、1号館と最後の2号館の姿。



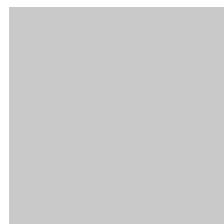
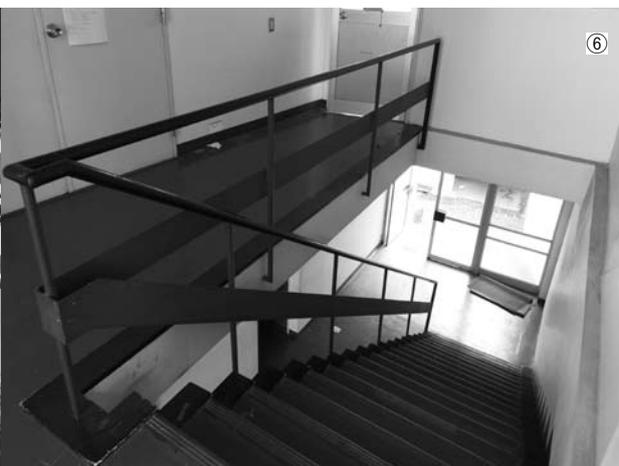
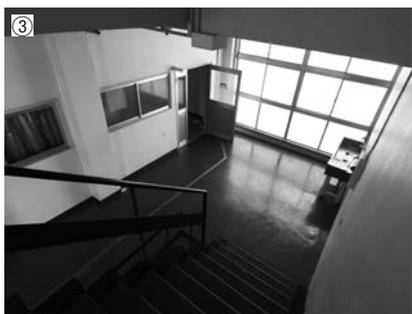
# 解体前の 旧3号館



①中庭からみた3号館北側と2号館。後方には最後の姿の桜。

館内は1994年の学部立ち上げの際、画像技術科から写真学科へ改造されたため短大時代の面影の残る部分は少なくなっていました。

- ②3号館入口。解体は最後に行われた部分。
- ③本館側の2階部分。左側の部屋は短大時代は教室で、学部になってからは阪川研究室（のち写真センター）。
- ④～⑥2階（東側）からの階段部分。右の部屋は短大時代は教室、のちにスキャナー室。学部になってからは山本研究室。
- ⑦スタジオ棟側から見た3号館。奥はクラブ室。

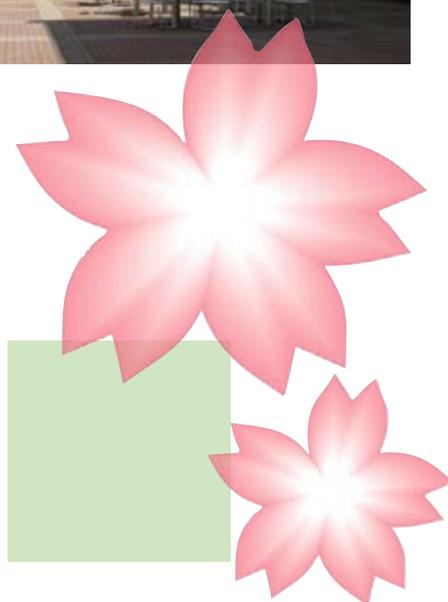


# 新校舎第Ⅱ期工事

## 桜

中野キャンパスには中庭に大きな桜の木があって毎年3月から4月にかけて綺麗に咲き誇っていた。現役の方からは、1967年に入学したときは既にあったというから、樹齢は少なくとも40年を超える老木でもあった。最近では樹齢の関係で太い枝が落ちるなどのことがあり、2008年に切られるとの噂もあったが無事に翌春には見事な花を咲かせていた。それでも2009年にはかなり切り落と

され、今春(2010年)は少々寂しい咲き方であった。桜の木は5号館(旧図書館)の前に立ち、キャンパス内でも限定された喫煙場所に夏の強い日差しを遮って日陰を提供してくれていたが、10月より始まるⅡ期工事で2-3-5-6号館と共に解体されることになった。工事開始に当たり9月29日に、法人専務理事をはじめ事務方、工事関係者が集まり、桜の木と2号館前で安全祈願が行われた。



※この写真のみ大学事務局提供

- ①2008年3月28日、満開の桜と新宿高層ビル群
- ②～④2010年3月30日撮影
  - ②枝を切り落とされて寂しくなった。
  - ③④それでも中野キャンパスのシンボリック的存在だった。
- ⑤2010年9月15日、Ⅰ期工事が完成し、引っ越しが完了しているため建物の中からは人の気配がなくなっている。
- ⑥2010年9月29日、桜の木に日本酒をかけ安全祈願が行われた。

写真と記(P3～8) 福村 敏(45期)



## 関西支部恒例の支部総会開催される

平成22年6月19日(土)、関西支部恒例の総会を大阪長堀橋にあります「アークホテル」にて開催し近畿各地から同窓生が参加しました。

大学より、東京工芸大学芸術学部長 内藤 明教授のご出席を頂き、また同窓会本部より東京工芸大学同窓会本部 奥田副会長の出席も頂く事ができました。

38期滝口氏の名司会のもと、42期駕田支部長の挨拶に始まり各役員、各地区の活動報告、会計報告、予算案などが審議されました。

来賓講演にて、「デジタルカメラ概観」と題し、芸術学部長 内藤 明 教授よりお話を頂きました。

記念撮影の後、懇親会に移り工学部27期三橋氏の司会、24期山本氏の乾杯に始まり、時間の経つのも忘れ現役に戻ったように話も弾み大いに盛り上がり、29期の岩朝氏の中締めで来年の再会を約して散会となりました。



# フォックス・タルボット賞



Congratulations



2010 フォックス・タルボット賞は11月11日に審査が行われ下記の方々が受賞しました。

第一席	孤独の地平 芸術学部写真学科2年	長谷川 唯
第二席	名勝負 芸術学部写真学科2年	田村 翔
第三席	いつかまた、どこかで。 芸術学部写真学科4年	山下 龍之介
佳作	Mesafe -キョリ- 芸術学部写真学科4年	オゼリ・ファーティ
佳作	DIP 芸術学部写真学科3年	滝口 哲也
佳作	Rousing 芸術学部写真学科2年	前田 梨花
佳作	whereabouts 芸術学部写真学科 2008 年卒	井上 千春
佳作	日傘 芸術学部写真学科1年	大塚 美香子
モノクロ賞	風の終わり 芸術学部写真学科4年	嶋田 篤人

フォックス・タルボット賞は、写真表現に情熱を傾ける若い作家の登竜門としての役割の他、国際的視野をもった写真家の育成を促進する目的により、1979年東京工芸大学短期大学部に設けられ、今回で第32回を迎えることになりました。

本賞は、ネガ・ポジ・プロセスの発明者で近代写真術の父、ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット氏（英・William Henry Fox Talbot 1800～1877）の偉業をたたえ、イギリスのフォックス・タルボット美術館のご協力を頂き、氏の名前を冠した賞となっております。

本年度のフォックス・タルボット賞の応募者は73名、作品数136点で、昨年度より1・2年生の応募が増えその結果一席・二席とも二年生が受賞しました。

第一席の作品は日常のスナップであり現在を記録しています。白黒銀塩で制作されプリントにも拘りを見せています。第二席はテニス、佳作「Rousing」はバスケットボールとスポーツの作品です。三席の作品は自身の祖母を扱っており身内であるからこそ撮れた写真です。佳作「Mesafe -キョリ-」（オゼリ・ファーティ）（トルコからの留学生）はトルコの現在を見せてくれています。佳作「DIP」、「whereabouts」、モノクロ賞「風の終わり」は心象風景です。佳作「日傘」はどこか懐かしさを彷彿させる単写真です。

上條正名（43期）

予告!!

東京工芸大学芸術学部  
卒業・大学院修了制作展 2011

開催日：平成23年2月18日（金）、19日（土）、20日（日）  
会場：六本木アカデミーヒルズ 40

- 写真学科 ●映像学科 ●デザイン学科
- メディアアート表現学科 ●アニメーション学科
- ゲーム学科 ●マンガ学科 ●大学院芸術学研究科

# ホームカミングデー

10月24日、厚木キャンパスにおいて本学では初めての「ホームカミングデー」が開催された。カミングデーは大学の近況に触れ、当時の懐かしい学友や恩師との楽しい再会、交流・親睦を深めるため大学が卒業生を招待するというイベントである。

当日は工芸祭（学園祭）が開催されていて、賑やかな雰囲気の中で、卒業25周年、50周年にあたる卒業生には大学が

ら学友記と記念品が贈られた。式典の後は学生ホール（元女子短大食堂）にて懇親会が行われ、抽選会や学生による似顔絵コーナーが行われ、少ない参加者ながら大いに盛り上がった。今回は厚木キャンパスでの開催であったが、次回（2011年）は中野キャンパスでの開催が予定されている。

写真と記：福村 敏（45期）



芸術学部長挨拶 内藤 明（47期）



若尾学長と同窓生親子<左：父（50期）、右：息子（工学部卒）>



↑ 短大卒業生 →



## 石川県支部総会

平成22年9月7日に東京工芸大学同窓会石川県支部総会が、金沢の居酒屋「この華」にて開催されました。

近岡支部長のご挨拶に引きつづき、乾杯のご発声。

また、会員の岩上氏から製版業界の現状などのお話もあり、出席者8名という少ない人数ながらも、楽しいひと時を過ごし、盛会となりました。

石川県支部 支部長 近岡房治 (36期)



平成22年9月7日 東京工芸大学同窓会石川県支部総会 於 金沢・この華 講師 岩上伸人

## 新潟県支部総会

平成22年9月9日、工芸大学より、畑鐵彦先生、糸賀成永常任理事よりお出で頂き、新潟市のプライダルステージデュオで新潟県支部総会を開催しました。

その日は天候にも恵まれ、夏の残暑のなか昭和33年卒から平成元年卒までの会員12名が集まりました。

最初に支部総会を行い、支部長から会務報告、長沼会計から決算報告をし、続いて創立90周年記念事業の寄付金についての審議に入りました。新潟県支部として寄付をする事に決まりました。

畑鐵彦先生より大学の工事の現状報告があり、ミニ講演会を拝聴し、その後長谷川副支部長の進行で懇親会に入り



東京工芸大学同窓会新潟県支部総会 2010・9・9

ました。会員から近況などをお話し頂き、和やかな雰囲気を楽しみました。

最後になりましたが、事務局の花川先生には大変お世話になり、ありがとうございました。

新潟県支部 支部長 小林俊郎 (44期)

## 埼玉県支部 第2回同窓会を開催

平成22年9月12日(日)、浦和の「ロイヤルパインズホテル」にて、第2回目の埼玉支部同総会を開催しました。同窓会本部からは川名晴美理事長、糸賀成永常任理事のご出席を得て、総勢20名参加の下、創立90周年記念事業の一環である新校舎1期工事の進捗状況報告や、会員同志が旧交を温め合うなど、3年振りに大変楽しく有意義なひとときを過ごしました。

なお、参加者の内訳として前回に比べ大幅に異なっていた点は、初めての参加者が半分もあり、しかもその全員が企業で定年を迎えた方々ということで、同窓会の輪がゆっくりの中にも確実に広がりがつつあることを実感いたしました。

次の開催は、2~3年後を予定しておりますが、その折りの参加者は大幅増が見込めそうだと、役員一同は期待しております。

埼玉県支部 支部長 豊島泰之 (35期)



東京工芸大学 埼玉支部同窓会 2010.9.12 於 ロイヤルパインズホテル

## 栃木県支部総会

暫くの間、休眠状態でした栃木県支部ですが、平成22年9月28日 宇都宮市のホテルニューイタヤにおいて、真貝宏先輩(31期)、大内文夫先輩(32期)をはじめ、諸先輩方のお力添えで20数年ぶりに再構築することができました。

東京から同窓会の理事長 川名晴美氏(34期)大学側



から花川正英先生（44期）上田耕一郎先生（75期）同窓会の立川宏司氏（42期）および池田陽子先生（39期）を講師に迎え、人形浄瑠璃文楽の講演をして頂き、懇親会へと進み盛会の内に時が過ぎました。

学生時代の話に花が咲き、楽しく、有意義な一時でした。

これから、縦、横の繋がりをより強固にし、若い世代にバトンタッチ出来るよう頑張りたいと思います。

**栃木県支部 支部長 細谷治男（43期）**



## 岩手県支部総会と 東北支部長会議を開催

平成22年10月6日（水）、岩手県支部同総会の開催に併せ、東北六県の支部長を集めて、初の東北同窓会支部長会（総勢17名出席）を、岩手県花巻市の幸迎館で開催しました。

岩手県支部の同窓会は、工学部の卒業生にも声をかけ、定期的に開催しておりますが、他の県では山形を除き足踏み状態が続いていることから、まずは東北各地の支部長が一堂に会し、東北地区の同窓会の活性化について討議の場を設け、お互いに知恵を出し合い、盛り上げを図ろうとい



うものです。

この会合には、岩手県以外に宮城県・山形県・福島県より役員が駆けつけ、長時間に亘り、担当地区での同窓会の現状報告、地区毎の強みや弱みの分析、恒常的開催のための施策の展開法、そして東北六県の支部同志による支援協力などについて、熱心に討議されました。

本部側からは、畑鐵彦名誉教授、川名晴美理事長、立川専務理事が参加し、全国的な視野からの助言も得て、支部同総会活性化面での悩み解決に向けて、大きな成果をもたらしたようです。

なお、支部単独での同窓会開催に加えて、隣接支部との合同開催も考慮の余地があるとの発言があり、当件についてはその実現に向けて検討を続けることになりました。

**岩手県支部 支部長 村田 明（34期）**



東京工芸大学 同窓会東北支部長会議 2010年10月6日 於/幸迎館



東京工芸大学 同窓会東北支部長会議 2010年10月6日 於/幸迎館

# 東京工芸大学同窓会 執行役員・理事・評議員・支部長 任期 平成21年5月～平成24年4月まで

名誉会長	若尾真一郎(学長)			
名誉顧問	奥沢 和夫(22期)	本多 健一(元学長)		
顧問	仁科 義男(27期)	堀内 陽二(32期)	内藤 明(学部長)	

会長	田沼 武能(24期)			
副会長	奥田 昇(28期)	細江 英公(29期)	大沢 登(30期)	
理事長	川名 晴美(34期)			
専務理事	中村 正彌(34期)	田村 寛(42期)	立川 宏司(42期)	花川 正英(44期)
常務理事	福村 敏(45期)	糸賀 成永(56期)	安達洋次郎(39期)	上田耕一郎(芸3・75期)

理事	清宮 輝(33期)	小池 恒裕(33期)	加藤 春生(34期)	八方 一治(34期)
24名	佐土原一浩(36期)	角原 征也(37期)	木村 政夫(38期)	内田 勲(39期)
	池田 陽子(39期)	岡村 征夫(41期)	畑 鐵彦(41期)	内藤 明(47期)
	板垣 雅春(49期)	吉野 弘章(60期)	淺野 耕平(芸1・73期)	池谷 彩子(芸2-74期)
	磯田 正和(芸7・79期)	小川 誠(芸7・79期)	工藤 洋司(芸10-82-期)	
	菅原 孝一(大学事務局長心得)	樺沢 忠雄(中野事務部長)	松尾 未来(学務課長)	
	駕田 毅(42期)支部長兼	小林 俊郎(44期)支部長兼		

会計監事	土屋 哲郎(32期)	佐藤 雅英(34期)		
------	------------	------------	--	--

評議員 50名	樋口 進(19期)	今井 克郎(21期)	佐藤 一雄(21期)	野々垣文雄(24期)
	中野 慶一(27期)	村上 力(28期)	岩島 武彦(41期)	川端 秀樹(41期)
	山本 晃(41期)	上條 正名(43期)	佐藤 等(45期)	小関 雅章(51期)
	杉木 彬(40期)	増田 鉄也(36期)	山田 仁(38期)	鈴木 克明(40期)
	木下 恵修(70期)	石井 清士(芸1-73期)	斉藤 明(芸7・79期)	古屋 周一(芸8・80期)
	国井 光司(芸9・81期)	福田 康平(芸9・81期)	平山 優(芸10・82期)	吉富 亮介(芸10・82期)
	坂本 佳子(芸10-82期)	今井 亜希(芸11-83期)	川上 明代(芸11-83期)	別府 笑(芸11-83期)
	栗崎健太郎(芸12-84期)	菱田 悠(芸12-84期)	松井 大貴(芸12-84期)	水口 彩(芸12-84期)
	土田浩二郎(芸12-84期)	小浪 次郎(芸12-84期)	細谷 治男(43期)	久保 雅義(36期)
	福田 康平(芸9-81期)	野村 昌孝(芸9-78期)	鎌田 佳恵(芸19-82期)	大澤 暁空(芸12-84期)
	森井 明(芸12-84期)	山崎 宏之(芸12-84期)	岸 剛史(芸13-85期)	柴田さやか(芸12-84期)
	竹井美砂子(芸13-85期)	高山はるか(芸11-83期・院)	佐野いお莉(芸13-85期)	関田真梨菜(芸13-85期)
	KIM KAB MIN(芸13-85期)	満留 幸治(芸13-85期)		

支部長 33名	筒淵 美允(北海道37期)	矢川 元(青森43期)	村田 明(岩手34期)	阿部 貴彦(宮城61期)
	小泉 楨子代理(秋田41期)	杉山 健(山形40期)	伊藤 正春(福島44期)	小林 俊郎(新潟44期)
	滝澤 一彦(長野32期)	磯 武(山梨40期)	細谷治男(栃木43期)	黒柳 隆(群馬40期)
	豊島 泰之(埼玉35期)	多田 良文(千葉45期)	平井貞幸(神奈川47期)	松野 崇(静岡42期)
	磯谷 武美(東海36期)	駕田 毅(関西42期)	近岡房治(石川36期)	下村 耕一(福井30期)
	田中 浩史(鳥根55期)	立木 一光(鳥取44期)	永瀬 隆一(岡山39期)	奥谷 収吉(香川46期)
	桑村 憲広(徳島45期)	西川義章(高知55期)	奥田 昭造(愛媛24期)	古前 隆士(広島46期)
	村田 武司(山口52期)	堤 隆志(全九州34期)	屋良 克彦(沖縄37期)	野崎 博(富山44期)
	平石 和之(茨城63期)			

2010.10.28 一部変更



# 工学部同窓会40周年記念式典・祝賀会



工学部同窓会40周年記念式典祝賀会が平成22年11月27日(土)新宿ハイアットリージェンシー東京で開催されました。

当日は天候にも恵まれ総勢約200名をこえる出席者で同窓会会長 新 精一氏のあいさつにつづき、学長若尾真一郎氏、理事長小野茂夫氏、工芸大学同窓会会長田沼武能氏の祝辞があり、なごやかな会場に話がはずみ盛大なうちにお開きとなりました。

広報 中村正彌 (34期)

## 訃報 (敬称略)

- |                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| 広島 弘三 (6期卒)            | 磯谷 知寿雄 (33期・写真技術科卒)   |
| 佐藤 寿 (7期卒)             | 杉江 孝一 (33期・写真技術科卒)    |
| 小松(上條)太計雄 (10期・写真芸術科卒) | 中島 基博 (33期・写真技術科卒)    |
| 沢村 吉光 (10期・写真芸術科卒)     | 金子 白洋 (33期・写真工業科卒)    |
| 日比野 正 (10期・写真芸術科卒)     | 大井 利夫 (33期・写真工業科卒)    |
| 亀井 茂治 (16期・写真芸術科卒)     | 山浦 栄二 (34期・写真工業科卒)    |
| 村田 秀雄 (17期・写真芸術科卒)     | 大塚 晴夫 (35期・写真技術科卒)    |
| 天堤 秀郎 (19期・写真芸術科卒)     | 荒木 照雄 (37期・写真印刷科卒)    |
| 山本 謙三 (22期・写真光学機械科卒)   | 牧 逸郎 (35期・写真技術科卒)     |
| 山田 和男 (22期・写真化学工業科卒)   | 小林 攻 (40期・写真印刷科卒)     |
| 杉山 福次郎 (26期・写真技術科卒)    | 高橋(足立)洋子 (43期・写真工業科卒) |
| 石橋(嶋)昌義 (28期・写真技術科卒)   | 佐藤 明美 (44期・写真技術科卒)    |
| 梶原 謹輔 (28期・写真技術科卒)     | 大田 茂 (44期・写真技術科卒)     |
| 勝沼(小塚)美枝子 (30期・工業科卒)   | 周藤(山根)久扶 (44期・写真技術科卒) |
| 竹内 佑禎 (30期・工業科卒)       | 盛田 祥夫 (47期・写真技術科卒)    |
| 内藤 亮 (30期・工業科卒)        | 山崎 重男 (47期・写真技術科卒)    |
| 吉村 惇 (30期・工業科卒)        | 霜田 敏彦 (48期・写真技術科卒)    |
| 加藤 由治 (31期・写真技術科卒)     | 松原 千代二 (49期・写真技術科卒)   |
| 石上 武 (31期・写真工業科卒)      | 高岡 温 (52期・写真技術科卒)     |
| 鈴木(黒田)早苗 (31期・写真工業科卒)  | 玉寄 秀則 (56期・写真技術科卒)    |
| 横山(青木)芳彦 (32期・写真技術科卒)  | 鈴木 多 (61期・写真技術科卒)     |
| 吉門 孝夫 (32期・写真技術科卒)     | 兼平 昌也 (65期・画像技術科卒)    |
| 石井 潤子 (32期・写真工業科卒)     |                       |

大学 HP アドレス <http://www.t-kougei.ac.jp>

入試相談受付(入試センター) TEL.0120-12-5246

同窓会事務局(総務) TEL.03-5371-2710

ひろば・同窓会・広報へのメールアドレス(受信専用) [dousokai@t-kougei.gr.jp](mailto:dousokai@t-kougei.gr.jp)

住所変更は、同窓会ホームページでも出来ます。 <http://t-kougei.gr.jp/>

ひろば原稿の送付先 東京工芸大学芸術学部同窓会・広報担当 福村敏あて

ひろば原稿以外の各種連絡先 東京工芸大学芸術学部同窓会 本部あて

# 「46期」大集合



8月28日、新宿小田急ホテルセンチュリーサザンタワーにて、写大46期は、入学時のA組、B組、C組、D組の有志が発起人になり卒業40年並びに還暦を記念して、数年前から準備をして、総勢60余名を集め、入学当時の各クラス担任の先生方11名にもご出席を頂きました。

学生生活2年間の思い出話に盛り上がり、あっという間の2時間でした。

お開き後は、それぞれのクラス毎で二次会が行われ、語らいやら、カラオケやら楽しい一日を過ごしました。

栗原正知（46期）

## 展覧会・出版案内

**欣求異土 青木古道・写真展**  
～街に息づく“異界”との邂逅～

平成22年10月9日(土)～15日(金)  
於 ガラリー深志(午前11時～午後6時30分)  
<入場無料>

<p><b>【青木古道】</b> 昭和24年、佐所に生まれる。小学生時代、フィルムカメラに出会い写真の魅力を知る。20代に友人の人物像を撮った。近年は、真面目に息づく小さな「異土」との邂逅を求め、デジタルカメラとともに歩き回っている。松本市在住。 (本名、青木昭夫)</p>	<p>10月8日(金) オープニングパーティー 午後6:30より(会費千円)</p> <p><b>ギャラリー深志</b> 〒390-0815 松本市深志1-5-8 深志ビル1階(プエナビスタ西隣) 電話 0263-321017 (RPA) 【付設駐車場】 ・シルヴァーキング(当ビル西隣) ・駅前広場地下(プエナビスタ北)</p>
---	---

作家の会報誌毎日 49、9、10、11号(※10日は午後1時まで)  
★企画・主催: Gallery Futaba Co., Ltd.

**青木古道・写真展**  
欣求異土  
～街に息づく“異界”との邂逅～  
2010年10月9日(土)～15日(金)  
午前11時～午後6時30分  
場所: ガラリー深志  
松本市深志 1-5-8  
深志ビル1階  
TEL.0263-32-0817



**田沼武能写真展**  
笑顔大好き 地球の子  
2010年11月21日(日)～12月12日(日)  
午前9時～午後8時  
場所: 渋谷区文化総合センター  
大和田開設記念  
TEL.03-3464-3381

**小説家たちの休日**  
昭和文壇実録

川本三郎 樋口進 著

司馬遼太郎は海外で「英語を話したくない、そして夕食はうどんすきにしようか」

昭和に活躍した作家6人の秘蔵写真とウラ話、一挙に公開!

文藝春秋

**小説家たちの休日**  
昭和文壇実録  
著者: 川本三郎  
写真: 樋口進  
発行: (株) 文藝春秋  
樋口進(19期)

### 編集後記

2010年も間もなく終わり、若い頃には考えもしなかった、「あと何年」が会話の中に多く出るようになった。そして短大時代からの先輩方が次々に定年退職され、寂しくなってきた。自分も余命が短くなったことをひしひしと感じる。

中野キャンパスでは昨年からは建てかえが行われているが、在籍中に2度同じ建物(2号館)の建てかえを見るとは思いもよらなかった。先日調べて見ると、入学して以来、定年退職する予定までの47年間のうち、15年半は通学・通勤時間ということで、良く続いたものだと自ら感心してしまった。

福村 敏(45期)